



TITLE:

<訃報>萩原淳平教授の訃

AUTHOR(S):

杉山, 正明

CITATION:

杉山, 正明. <訃報>萩原淳平教授の訃. 東洋史研究 2001, 60(1): 204-204

ISSUE DATE:

2001-06-30

URL:

<https://doi.org/10.14989/155369>

RIGHT:

訃報

萩原淳平教授の訃

長年にわたり評議員さらには副會長として本會のために盡力された京都大學名譽教授萩原淳平先生は、平成十二年十二月十七日、腎不全のため静岡市安東の御自宅にて逝去された。享年八〇。

先生は大正九年四月四日、静岡市の生まれ。昭和二十一年に京都帝國大學文學部史學科を卒業後、文學部副手、静岡縣立臨時教員養成所教授、京都大學文學部助手、同講師（非常勤）を経て、昭和三四年に京都大學文學部助教授、同五三年に同教授に就任、東洋史學第二講座を擔任された。同五九年、停年により退官され、京都大學名譽教授の稱號を受けられた。京都大學退官後は立正大學教授に就任、ひきつづき教育と研究に勵まれた。

先生のご専門は、モンゴルを中心とする北アジア史および東アジア史で、なかでも『明代蒙古史研究』（同朋舎）は明代のモンゴル史に關する三十年餘にわたる研究の集大成である。龐大な漢文とモンゴル語の史料を典據として、明朝とモンゴルとの多様な交渉史を

主軸に据えて、それをめぐって展開されたモンゴル社會の動態を究明した本書は、この分野の研究に新たな展望を開いたものであった。また、明代モンゴルに先行するモンゴル帝國・元朝史についても、從來のやや紋切り型の征服王朝論を見直す論考を多數發表した。モンゴルの中國支配の原點をさぐるねらいからなされた一連のムカリ王國の研究、およびそれに關連する探馬赤軍についての論及は、國內ばかりでなく、海外とくに中國の學者たちとの活潑な論争を呼び起こしたことは記憶に遠くない。

さらに、京都大學文學部における大規模な史料編纂事業に、長い歲月にわたって従事されたことも忘れられない。すなわち、昭和九年以來、浩瀚な『明實錄』のなからモンゴル關連の記事を抽出し校訂するという、鋭敏な史眼と不撓の意志・根氣がもたられる作業にあたつては、全十八冊の『明代滿蒙史料』の完成・公刊に中心的な役割をはたされた。ひきつづく上中下三冊の『元史語彙集成』などの編纂にも力を盡くされた。

溫良・典雅なお人柄は、學生教育においても變わることなく、先生によつて勇氣づけられたものは少なくない。また、故郷の静岡と

學問研鑽の地であつた京都とを、ともにこよなく愛した方であつた。（杉山正明）

泉報

學界動靜

京都大學東洋史關係

平成十三年度東洋史關係講義題目

* 印學部共通

東洋史學

大學院

特講 * 朝鮮燕行使と康熙・雍正中國

夫馬 進 教授

* 『集史』の文獻學研究

杉山 正明 教授

* 「綱鑑」の研究

中砂 明德助教授

* 『河朔訪古記』の研究

愛宕 元 教授

* 十六・十七世紀の東北アジア史

松浦 茂 教授

* 日本の植民地支配と人の移動（Ⅱ）